

令和7年7月15日

太田市議会議長 星野 一広 様

創政クラブ 代表 久保田 俊

会派視察報告書

- 1 期 日 令和7年7月2日（水）から
7月4日（金）までの3日間
- 2 視 察 地 香川県（高松市）、新居浜市、今治市
- 3 視察事項 (1) 高松市
・あなぶきアリーナ香川の災害対策及び対応について
(2) 新居浜市
・スマートシティにいはまについて
(3) 今治市
・アシックス里山スタジアムについて
- 4 参 加 者 3名
矢部伸幸、高田靖、川岸靖隆
- 5 視察概要 別添のとおり

(1) 高松市 視察概要

高松市の概要 (令和7年6月1日現在)

- ・面積 375.54 k m² ・人口 416,252 人 ・世帯数 206,071 世帯
- ・市制施行 明治23年2月15日
- ・一般会計予算額 (当初) 令和7年度: 1,844 億円
- ・議員定数 40 人
- ・政務活動費 (議員一人当たりの年額) 1,200,000 円

視察事項

「あなぶきアリーナ香川の災害対策及び対応について」

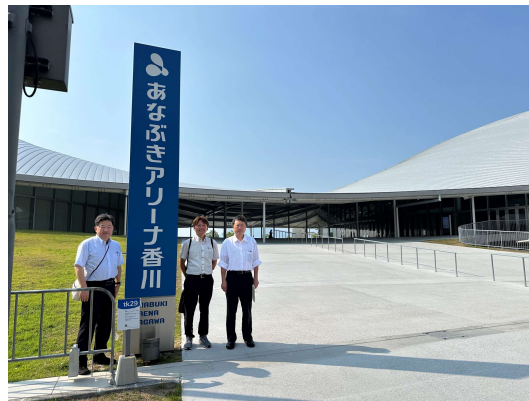
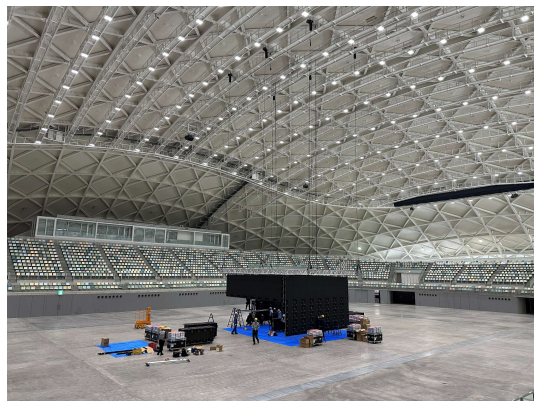
・目的

本市には「太田市総合運動公園」等の、多くの人が集まれる公共施設がある。そこで、香川県高松市に「あなぶきアリーナ香川」が2025年2月に誕生した。最新の施設での災害対策及び対応について研修するものである。

・所感

あなぶきアリーナ香川は、2025年2月に高松市サンポートに開業した、中四国最大級の多目的施設です。約1万人収容のメインアリーナを中心に、サブアリーナ、武道施設を兼ねた多目的ルームなどを備え、スポーツ大会・コンサート・展示会・地域イベントなど多彩な用途に対応しています。VIPルームやトレーニングルーム、交流エリアなども完備され、利便性と快適性が両立されています。瀬戸内エリアのスポーツ・文化・観光の融合拠点として注目を集めており、開業以来、多様なイベントが開催されています。災害対策については、力を入れており、火災を想定した避難訓練(2025年2月実施)や多言語対応(日本語・英語・中国語・韓国語の館内放送)などにより、来場者の安全確保を徹底。専門家監修による避難経路の確保、自動制御放水銃の設置、携帯不感知対策も講じられています。地域との連携による防災力向上にも積極的に取り組んでおり、単なる設備面にとどまらない、多面的で実効性ある危機管理体制が整備されています。このような多言語対応や訓練の重要性は、外国人住民が多い本市にも応用できると考えます。研修で学んだ内容を参考に、

今後の研究に活かしていきます。



(2) 新居浜市 視察概要

新居浜市の概要 (令和7年6月1日現在)

- ・面積 234.47 k m² ・人口 111,807 人 ・世帯数 57,439 世帯
- ・市制施行 昭和12年11月3日
- ・一般会計予算額 (当初) 令和7年度: 約534億円
- ・議員定数 26人
- ・政務活動費 (議員一人当たりの年額) 216,000円

視察事項

「スマートシティにはまについて」

・目的

スマートシティ推進の実情と先進施策を現地で確認し、技術活用や住民サービス向上の取り組みを具体的に把握すること。現地での成功事例や課題を整理し、効率的な行政運営、透明性の向上、各ステークホルダー間の連携強化のための貴重な情報源を構築することを目指しています。これにより、今後の政策立案や地域振興のための参考資料として活用し、本市におけるスマートシティ化の一助とすることが期待されます。

・所感

スマートシティにはまは、愛媛県新居浜市が産学官民金の連携体制を活用して、少子高齢化や商業活動の低迷、公共交通の課題、防災対策など地域の諸問題を解決するため、FIWARE 基盤によるデータ利活用やオープンデータの公開を通じて、スマートモビリティやスマート防災、地域ポイント制度、テレワーク支援、健康寿命の延伸などの取り組みを展開し、ICT・AI 技術を駆使して「住みたい、住み続けたい産業・環境共生都市」の実現を目指す包括的な都市づくり施策です。スマートシティにはまの取組としては、最新技術の単なる導入を超え、実用性と革新性が見事に融合した先進的な都市運営モデルです。交通、エネルギー管理、災害対策、医療・福祉サービスなど、各分野におけるデジタル技術の活用により、市民生活の利便性向上と行政の効率化が実現されています。現場でのデータ収集や解析に基づき、住民からのフィードバックを迅速に反映する改善サイクルも確立されつつあります。一方、技術導入に伴うセキュリティリスクやシステムの安定性、デジタルに不慣れな層への情報提供という課題も浮き彫りになりました。これらの現実的な問題に対処するため、専門家の継続的なモニタリングと、住民参加型の改善プロセスが今後の課題です。新居浜市の事例は、地域独自のニーズに柔軟に応えながら持続可能な都市発展を目指す上で、本市にとっても貴重な学びの対象となるものです。



(3) 今治市 視察概要

今治市の概要 (令和7年3月31日現在)

- ・面積 419.21 k m² ・人口 146,721 人 ・世帯数 76,436 世帯
- ・市制施行 大正9年2月11日
- ・一般会計予算額 (当初) 令和7年度 : 813 億円
- ・議員定数 30 人
- ・政務活動費 (議員一人当たりの年額) 360,000 円

視察事項

「アシックス里山スタジアムについて」

・目的

アシックス里山スタジアムの運営状況と、民設民営の運営実績を確認するとともに、収益性と公共性のバランスをどのように取っているかを確認。また、スポーツイベントによる地域経済への影響や住民の利用促進策の成果を学び。施設の維持管理コストを抑える方法や、利用者満足度の向上策、安全管理体制の構築について、他の先進的な事例を学び。今後の地域内のスポーツ施設整備計画や、既存施設の改修計画の参考となる情報を収集することを目的としました。

・所感

アシックス里山スタジアムは、柔軟かつ効率的に運営することで、施設の稼働率を高めながら収益性も確保しています。地域のスポーツクラブや学校と連携することで、地域に根付いた運営が実現され、スポーツイベントの誘致を通じて周辺地域に経済効果をもたらし、スポーツツーリズムとしても成功しています。また、地域住民の健康増進や異世代間の交流を促す社会教育施設としての役割も果たしています。一方で、施設の老朽化に伴う維持管理費の増加に対して、長期的な改修計画とそのための財源確保が課題です。さらに、利用者の多様なニーズに応じた設備更新や、公共交通機関の利便性向上による利用促進のため、関係機関との連携強化も求められています。今回の視察で得られた、民設民営の効果的な運用方法、地域連携の手法、収益性確保のノウハウ、そしてスポーツを通じた地域活性化の成功事例は、今後のスポーツ施設運営やまちづくり戦略に大いに役立つ貴重な知見となるでしょう。

